



雲雀丘 花屋敷駅

ふちんかん



宝塚市雲雀丘に住んで17年、最寄り駅の雲雀丘花屋敷駅を紹介します。

その1 梅田行きは必ず座れる

宝塚線の列車運用は、速達電車の急行を終点の宝塚まで運行し、普通は雲雀丘花屋敷駅止まりにしています。これは駅の西側に平井車庫があるため折り返しが他の駅よりは便利だからでしょう。そのため梅田方面に行くときは、必ず始発の普通電車に乗れます。もちろん急行の方が乗っている時間は短いのですが、普通に乗ってもラッシュ時以外は急行に抜かれることはありません。

その2 私鉄で日本一早い電車に乗れる

4:25発の梅田行き始発が、私鉄では一番早い電車だそうです。まあほぼ梅田の朝帰り客を乗せるための回送電車みたいなものかもしれませんが。

その3 終電も遅い

車庫が横にある関係で終電も遅いです。梅田発の宝塚線の下りは、終点・宝塚行きが23:48なのに対し、雲雀丘花屋敷行きはその後4本の運転があって最終が0:25です。夜半を過ぎると雲雀丘花屋敷駅前にはタクシーが屯します。

その4 学生専用通路がある

雲雀丘には「雲雀丘学園」があり、学園直結の専用通路が宝塚行きホームの西端にあります。ここだけは学生さんをはじめ学校関係者しか通れない…。



はっ!雲雀丘学園に転職すれば…

その5 雲雀丘駅と花屋敷駅が合体してきた

もともと阪急宝塚線の前身・箕面有馬電気軌道の駅として花屋敷駅がありました。現在の川西能勢口駅と雲雀丘花屋敷駅の間あたりにある花屋敷踏切あたりだったようです。その後住宅開発に伴い雲雀ヶ丘駅が開設されました。しかし1961年、車両編成が伸びてきたことによって、駅間の短い2駅を統合することになりました。このときどちらの駅を残すかで地元の自治会がもめて、国務大臣に提灯行列して陳情するなど大紛糾したという話が残っています。それでも折り合いが付かず、けっきょく自治会長同士の「じゃんけん」で決着したということです。けっきょく旧雲雀丘駅のすこし花屋敷寄りの場所に両駅は統合されました。

おすすめの駅

もし旧花屋敷駅が残っていたら、1996年に隣の川西能勢口が雲雀丘花屋敷駅寄りに移転したことで、また駅間が短くなり妙なことになっていたことでしょう。

その6 花屋敷駅は日本初のトロリーバスの始発駅だった

以前の記事(2003年9月号)に書きましたが、廃止された花屋敷駅から山手に分け入った先に、新花屋敷温泉や遊園地がありました。そこへ向けてトロリーバスが走っていたということです。

その7 駅前にセブンイレブンがある

なにを当たり前のことを言われるかもしれませんが、以前は雲雀丘花屋敷駅前にはコンビニは存在しなかったのです。11年前に「やぎや」という酒屋がコンビニ形態に改装して営業を開始、それなりに便利になりました。そして1年前にそれを居抜き・拡張する形でセブンイレブンが営業を開始しました。いや便利です。ふだん電車を使う機会は少ないのですが、飲みした後で軽くおにぎりやアイス、肉まんなどね、品揃えが違いますわ。

その8 週末限定の雑貨屋・喫茶店「ペタル」がある

駅の東側に「ペタル」という名のこじんまりとしたお店があります。金・土・日しか開いていないそうです。中に入るとフェアトレード系の雑貨屋、その奥の階段を昇った2階にはテーブルが2・3脚置かれた部屋があり喫茶店になっているそうです。お値段はケーキと飲み物で1000円コースらしく、私には受け入れがたいのですが、家族はそれなりに気に入っているようで何度か行っているようです。



その9 キャリア教育を標榜する塾「STORY」がある

普通の学習だけではなく、生き方を考え自分で道を開けるような指導もしてくれる個別塾です。指導の後はB4びっしりのレポートをメールで送ってくる熱心な指導がウリです。自習部屋は使い放題、学期に1回くらいのペースで生き方ワークショップ(学習会・討議会)も無償で開いています。開業時には檄文のようなチラシが配布され、私もその趣旨に賛同し、子どもたちを通わせていました。が、月謝が高いんだよね。

その10 うちがある

高台にあるうちのマンションから駅までの一本道、下りは急げば5分、帰りはのんびり10分つてところですね。眺めが最高です。

